

学術情報を Web 上で効率よく使うために

～金沢大学で利用できる Web 関連サービス～

情報部情報企画課 附属図書館 守本 瞬

1 はじめに

附属図書館では、ネットワーク時代の進展とともに変化してきた学術情報の流通形態に対応するべく、データベース (DB)、電子ジャーナル (EJ)、その他の Web サービスを導入してきました。このうち、DB での論文検索や、EJ での論文閲覧などはみなさんもよくお使いのことと思います。

今回は、このような中心的なサービスのほかに、知っておくと便利な Web 関連サービスについて、ご紹介します。

2 学外からデータベース・電子ジャーナルを利用する ～ Shibboleth 認証, VPN ～

金沢大学で契約している DB/EJ は、学内 LAN からは無条件で利用できます。この DB/EJ を、自宅から、また外出先から利用するためには、以下の2つの方法があります。

■ Shibboleth (シボレス) 認証を使う [図1]

学外から各 DB/EJ のサイトにアクセスした後で、専用のログイン画面から金沢大学の構成員であるという認証を行うことで、学内と同様のサービスを受けることができる認証方式です。cookie を利用しますので、アクセスしている間は複数のサービスを再認証せずに利用することができます。また、PC へのインストール作業が不要ですので、環境に左右されずに利用できます。

まだすべてのサービスサイトがこの認証方式に対応しているわけではありませんが、Web of Knowledge, Elsevier (SD, Scopus), SpringerLink, CiNii などが対応していますので、大いに利用していただければと思います。

今後もこの方法で利用出来るサービスは増えていきますので、お知らせしていきます。

■ VPN を使う [図2]

学外から金沢大学内の VPN サーバに一旦アクセスし、認証を受けた後で、金沢大学を経由した学外へのアクセスを行うという認証方式です。PC に専用のソフトをインストールして利用します。

この方式では、ほぼすべてのサイトが利用可能になります。

Shibboleth 認証が使えないサイトに対しては、こちらの利用をお願いいたします。

接続についての説明は、附属図書館ホームページの [学外からの利用] をご覧ください。

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/navi/outcampus.html>
また、平成 23 年 1 月発行の館報「こだま 175 号」にも、もう少し詳しい解説が掲載されています。

図1 Shibboleth 認証

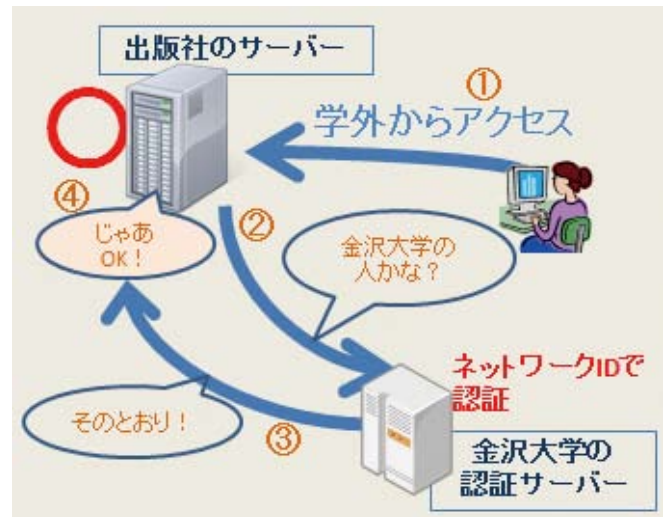
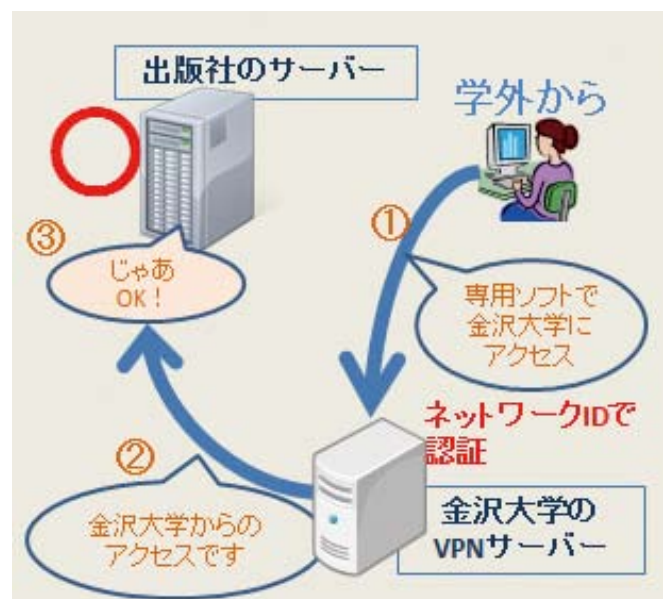


図2 VPN 接続



3 論文の引用数を調べる ～ Scopus, Web of Science, CiNii ～

論文評価のために利用できる指標の一つに「引用数」があります。引用数は、論文の参考文献欄に挙げた回数をもとに算出されています。

引用数を調べられるツールには、Web of Science, Scopus, CiNii があります。調べたい論文を検索するだけで表示されます。(下図参照) 参考文献欄をもとに集計していますから、誰がどの論文で引用したかもわかります。

それぞれの DB で集計元の母集団が異なりますので、絶対的な数字ではありませんが、個々の論文の重要度を示す一つの指標になりうるでしょう。

Web of Science 「被引用数」

タイトル: [The hierarchy problem and new dimensions](#)
著者名: Arkani-Hamed N, Dimopoulos S, Dvali G
ジャーナル名: PHYSICS LETTERS B 巻: 429 号: 3-4
被引用数: 3,364



Scopus 「Citations」

Date	Source title	Citations
1998	Physics Letters, Section B: Nuclear, Elementary Particle and High-Energy Physics 429 (3-4), pp. 263-272	3350

CiNii 「被引用文献」

[The Modified Compression-field Theory for Reinforced Concrete](#)
VECCHIO F. J.
ACI Journal 83(2), 219-231, 1986
金沢大の電子ジャーナルを検索！ 2009.2～WorldCatLinker 被引用文献47件

4 検索後に論文にたどり着く ～リンクリゾルバ～

DB で論文検索したときに、本文が読めるのかどうか確認するのに苦労したことはないでしょうか。そんな時に便利なサービスが、リンクリゾルバです。

これは、検索した論文の入手先をナビゲートするサービスで、EJ, OPAC, Webcat, 雑誌のインパクトファクターなどへのリンクが一つの画面に収まっています。例えば、金沢大学で購読している雑誌かどうかを表示してくれます。また、OPAC での雑誌検索もワンクリックでできますので、非常に便利です。

DB の検索結果画面に のアイコンはないでしょうか。このアイコンからリンクリゾルバの画面に移動できます。一つ一つ検索する手間を省くことができますので、ぜひアイコンを押してみてください。

なお、平成 23 年度から、リンクリゾルバサービスの契約先が変更になります。現在の画面と異なるより使いやすいインターフェイスになる予定ですので、今回の記事では画面の説明は割愛いたします。新リンクリゾルバの解説につきましては、追って附属図書館よりお知らせいたします。

5 論文の可視性を高める ～学術機関リポジトリ～

発表した論文を多く引用されるためには、なるべく多くの研究者に読んでもらう必要があります。しかし、ジャーナルの価格高騰、大学の予算削減、学術出版の寡占化に伴い、ジャーナルの購読規模の維持に苦勞する機関が多くなりました。

このような状況の中で、論文を雑誌に発表するだけで、必要とする人に必ず届くと言えるでしょうか。数々の障壁を少しでも取り払って、なるべく多くの人に論文を届けることはできないでしょうか。

そこで利用していただきたいのが、KURA です。KURA は、論文を無料でインターネット公開するサービスで、Google Scholar や CiNii などでも検索されるようになり、ジャーナルを購読できない人など、より多くの人に論文が届くようになります。

著作権を心配される方もおられると思いますが、世界の90%以上の出版社が、機関リポジトリに最終原稿を載せる事を認めています。

機関リポジトリに論文の登録をご希望の方は、図書館ホームページトップ下の「研究成果の発信はこちらから」より投稿していただけます。図書館で著作権関係について調査した後、KURA に登録いたします。



いかがでしたでしょうか。これまで利用されたことのないサービスはありませんでしたか？

今回ご紹介したサービスも利用して、より効率のよい研究・学習を進めていただければと思います。